

新年度予算を可決

第2回定例会

平 成27年度予算及び予算関連条例については、定例会初日の10日に、平成27年度予算審査特別委員会（西山輝和委員長）を設置、3月17・18・19日の3日間で内容の審査を行いました。

新年度予算では、これまでの上水道事業会計と簡易水道事業特別会計が統合され、水道事業特別会計と集落排水事業特別会計が統合され、下水道事業会計になります。委員会採決では一般会計ほか5会計の全てが全会一致で原案とおり可決、23日の本会議でも全会一致で原案どおり可決し、平成27年度予算が成立しました。

なお、全会計を合わせた予算総額は120億4170万円、前年度比9%増となりました。



保育料の第2子以降無料化は、大
第1子を小学3年生までに拡

一般会計の予算は前年度比7・9%増となり81億9千万円となりました。主な事業として、歳入では、保育料の第2子以降無料化の対象要件拡大（1668万1千円減）、

歳出では、清水中学校の大規模改修工事（6億2百万円）、町営住宅建替事業（2億4031万円）、町民野球場改修工事（4580万円）などが挙げられます。

また、新規事業として、市街地にある廃屋に対する解体撤去費用の2分の1（上限50万円）を助成

する、廃屋解体撤去事業（300万円）が計上されました。

予算関連条例については、条例の新設4件、一部改正6件を可決しました。（新年度予算の詳細は、広報しみず4月号をご覧ください）

平成27年度一般会計予算
賛成討論
原 紀夫 議員

新年度予算は、過去にない大きな予算であるが、清水中学校の改修、消防庁舎の建て替え、公営住宅の建て替え等、どれも町民にとっては非常に大事なものであり、反対するものは何もない。子育て世代や高齢者にも配慮した予算と言える。

地方創生関連で国から人材が派遣され、人事評価関連の予算も計上していることから、町民を巻き込み、職員が一致団結して事業に取り組むよう強く希望し、賛成する。

町政を問う！

一般質問

3月定例会では8人の議員が理事者に対し、14項目の一般質問を行いました。なお、質問と答弁は要約してあります。

介護保険事業計画にかかわって

木村好孝 議員

4月からの「地域包括ケアシステム」実施推進の計画実施に伴い、介護予防訪問介護・通所介護の地域支援事業への移行のための「多様なサービス」提供は、基盤整備期間を設けて平成29年度の開始を目指している。基盤整備にかかわり、事業費の伸び抑制によるサービス低下など利用者の不安は数多いが、今後どのような対応・調整をし、必要なサービスを受けられるようにしていくのか。

高薄町長

介護保険事業者との協議を進め、事業が円滑に移行できるように努める。また、事業費の伸び抑制やサービスの低下が生じないよう検討を加える。また、移行期間中に多くの方々と協議し、地域全体で支え合っていく体制を整備していく。

介護報酬引き下げの影響と対応

木村好孝 議員

4月からの介護報酬は全体で2・27%の引き下げとなり、特別養護老人ホームは全体の改定率を大きく上回る6%削減と

なる。6割近くの施設が赤字となり、介護難民の増加が危惧されている。

また、サービスや職員へのしわ寄せが避けられず、一定の所得がある相部屋入居者は新たに部屋代が徴収される。

介護報酬引き下げによる地域事業所への具体的な影響、町の介護保険事業への影響と、町としての対応について伺う。

高薄町長

地域事業所は、町がより多額な助成をしなければ施設整備ができない状況になる。介護職員の処遇も改善していかなければならないので、当然、運営は厳しくなるものと考えられる。